

1. 概要

革命記念日にあたる25日、キルチネル大統領は、5月広場において、革命記念日を祝する大規模な集会を主催し、演説を行った。また、29日に行われた陸軍の日の式典において、キルチネル大統領は、一部の軍人が政府に批判的な言動をとったことに対して、同軍人らを戒める発言を行った。その他、有力野党議員の カリオ下院議員（共和国平等党党首）が、2007年の大統領選挙出馬を表明した。

外交面では、キルチネル大統領が、EU・中南米カリブ首脳会合に出席し、サパテロ西首相、メルケル独首相、アナン国連事務総長等とバイ会談を行った。ウルグアイとの間で外交問題化している製紙工場建設問題に関しては、亜政府が、同問題をICJに提訴した。また、亜において、亜・伯・ベネズエラ・ボリビアの各国首脳が急遽会合を行い、ボリビアの天然ガス国有化宣言の影響等について話し合った。さらに、亜において、ベネズエラを含むメルコスール5カ国が、ベネズエラのメルコスール加盟議定書に合意した他、独外相、パラグアイ外相、パキスタン外務担当国務相が訪亜した。

2. 内政

(1) 革命記念日

(イ) 革命記念日にあたる25日午前、キルチネル大統領は、大統領府において、当地駐在大使の接見を受け、同日正午には、市内の大聖堂で行われた毎年恒例のテデウム（ミサ）に出席した。

(ロ) 同日午後、キルチネル大統領は、5月広場において、革命記念日を祝する大規模な集会を主催し、約15分間の演説を行った。フェルナンデス首相によれば、同集会には約35万人のキルチネル支持者が駆けつけた由。

(ハ) 同演説概要は、以下の通り。

・3年前、自分は史上最低の得票で大統領に就任した。我々は、60%の貧困率、26%の失業率、約30%の極貧率を有しており、亜は崩壊するかと思われたが、国民の力によって、我々は国家の再建を開始した。

・我々は、国民の支援を得て、確固たる立場をとり、これまでとは異なる亜を建設していくことができた。1,000億ドルの民間債務のうち、我々は歴史的な削減を成し遂げた。歴史上初めて、我々は、戦いに勝利を収め、700億ドルを節約した。

・本日、5月広場は、IMFに正式に別れを告げた。亜は債務を支払い、もうこれ以上I

MFに依存しないからである。

・我々は、独立した司法を取り戻した。我々は、祖国の不処罰を保障した、恥ずべき法律である服従法及び終結法に終止符を打った。

・自分の夢は、より多元的な (Plural) 亜、再建を強固なものとする亜、労働者、企業家、知識人、社会から解放された全ての勢力が、我々が必要としているスペースを構築することができる亜の再建を手伝うことである。

・自分は、全ての亜人に多元的な構築を呼びかけたい。我々がすべきことはまだ多くあり、日々の闘いは辛いものである。

(二) なお、同日は、キルチネル政権が発足した日 (2003年5月25日) でもある。

(2) 政府と軍の関係

(イ) 24日、ブエノスアイレス市のサンマルティン広場において、軍政期に極左ゲリラ等に殺害された軍人等を偲ぶ非公式の集会が開催され、同集会には、軍の許可無く軍服を着用した現役軍人も参加した。軍服を着用して、軍政期の軍人を偲ぶ集会に参加した現役軍人6名は、軍の規律により、26日、拘束され、処罰された。

(ロ) 29日、ブエノスアイレス州のエル・パロマル陸軍士官学校において、第196回陸軍の日の式典が開催され、キルチネル大統領、シオリ副大統領、アルベルト・フェルナンデス首相、ガレ国防相、アニバル・フェルナンデス内相、イリバルネ司法相、ベンディニーニ陸軍参謀長等が出席した。

キルチネル大統領は、同式典の演説において、「5月24日にサンマルティン広場において、国家テロを正当化し、犯罪を擁護する(軍人の)言動があった。自分は、亜大統領として、何も恐れておらず、このような軍人も恐れてはいない」等と述べた他、詳細については説明しなかったものの、軍の組織改革を行う旨述べた。なお、軍事パレードには参加せずに同式典を後にした。

また、ベンディニーニ陸軍参謀長は、亜軍は、連邦憲法及び共和制と共にある旨改めて確認すると共に、「忠誠、服従及び規律は、陸軍の中核である。全ての現役軍人及び退役軍人は、これらを尊重する法的義務がある」と述べた。

(3) 2007年の大統領選挙

27日、野党・中道左派のカリオ下院議員(共和国平等党党首)は、2007年の大統領選挙出馬の意思を表明した。

(4) 議会の動向

(イ) 17日、議会下院は、カルメン・アラルコン下院議員の下院農牧委員長職解任を決定した。同議員は、政府・与党の派閥に属しながら、政府の牛肉輸出制限措置等を批判したことにより、政府・与党から農牧委員長を辞するよう要請されていた経緯がある。今後、同議員は、独自の派閥で行動する模様。

(ロ) 23日、議会下院は、パティ連邦統一党党首の下院議員就任を認めない決定を下した。同党首は、昨年10月の議会選挙において、ブエノスアイレス州選 挙区から下院議員に当選したが、同州の警察副所長時代に拷問等の人権侵害に関与した疑惑があるとして、下院において、同党首の下院議員就任を認めるか否か につき審議されていた経緯がある。

この結果、同党首の代わりに、連邦統一党のダンテ・カマーニョ氏が下院議員に就任した。

(5) メーデーの動向

(イ) 1日、数千人規模の左翼集団、反政府ピケテロ・グループ（抗議活動の手段として道路封鎖等を行う失業者団体）、賃上げ交渉中の一部労組、学生等は、昨年同様、議会前広場から大統領府前に位置する五月広場に向けてデモ行進を行った後、五月広場において抗議集会を開いた。

(ロ) これらの団体は、最低賃金引き上げ（月給630→2,000ペソ）、ストの呼びかけ、民営化企業の再国有化、対外債務支払い拒否等を求めた他、イラクからの米軍撤退等までも叫んだ。また、同団体は、「キルチネル政権下でも、貧困や抑圧は続いている」等と述べて、政府批判を行った。

(ハ) 同デモ及び集会においては、参加した団体同士で小競り合いが起こった他、ピケテロメンバーを轢いて交通事故を起こした車が、同集会に参加した者により破壊される等の事態が起こったが、大きな混乱には発展しなかった。

(6) アルゼンチン航空の賃上げ問題

15日、度々ストを決行してきたアルゼンチン航空の整備士労組及びパイロット労組は、経営側と約19%の賃上げ等で合意に至った。

3. 外交

(1) EU・中南米カリブ首脳会合

(イ) 9-13日、キルチネル大統領は、第4回EU・中南米カリブ首脳会合に出席するため、オーストリアを訪問した。

(ロ) 12日、キルチネル大統領は、同首脳会合においてスピーチをし、ウルグアイにおける西及びフィンランド資本による製紙工場建設問題に関連し、先進国のみならず、途上国においても環境は保全されなければならない、欧州において適用されるべき環境基準が中南米では守られていない旨発言し、ヨーロッパ系企業による環境保護の二重基準を痛烈に非難した。

また、同日、首脳陣の記念撮影中に、報道陣に紛れていたグアレグアイチュ市（注：ウルグアイの製紙工場建設地フレイVENTOS市の川向かいにある市。1年に1回のカー

ニバル祭りが有名) 出身の亜人女性が、突然、製紙工場建設反対を訴えるプラカードを掲げ、カーニバルの衣装で現れ、大きな話題を呼んだ。その後、同女性はすぐに警備員により取り抑えられた。亜政府は、同女性の行動が亜政府と全く関係のないものであるとの立場を強調した。

(ハ) その他、キルチネル大統領は、サパテロ西首相、メルケル独首相、アナン国連事務総長等とバイ会談を行ったが、製紙工場建設問題で関係が悪化しているバスケス・ウルグアイ大統領との会談は行われなかった。

(i) サパテロ西首相との会談

12日、キルチネル大統領は、サパテロ西首相と約30分間会談した。会談において、キルチネル大統領が6月21-22日に西を公式訪問することが決まった。

キルチネル大統領は、サパテロ首相に対し、亜に投資しているレプソルYPF社に関し、亜での石油探査のための更なる投資を要請した。西系民営化企業の公共料金問題については、言及されなかった。

サパテロ首相は、キルチネル大統領に対し、西の国内問題につき、バスク祖国と自由(ETA)との和平交渉における進展、西における移民問題について説明した。

(ii) メルケル独首相との会談

12日、キルチネル大統領は、メルケル独首相と約30分間会談した。会談において、キルチネル大統領は、亜は、債務返済プロセスを継続する意志がある旨伝えた。これに対し、メルケル首相は、パリクラブにおける亜債務につき言及したが、亜側は、具体的な(返済の)期限については言及せず、時間を引き延ばすこととはないとの意志を伝えた。

メルケル首相は、ベネズエラやボリビア等を巡る南米情勢につきキルチネル大統領に質問し、キルチネル大統領は、亜、伯が地域の均衡を保つために果たしている役割について説明した。

(iii) アナン国連事務総長との会談

12日、キルチネル大統領は、アナン国連事務総長と会談し、亜の経済回復、ハイチ問題、安保理改革について話し合った。なお、製紙工場建設問題を巡る亜ウルグアイ間の外交問題は、話題にならなかった。

(2) ウルグアイ

(イ) ウルグアイにおける製紙工場建設問題

(i) 4日、亜政府は、ウルグアイにおける製紙工場建設の即時中断等を求めて、ウルグアイを相手取り、在オランダ亜大使館を通じて、国際司法裁判所(ICJ)に提訴した。

(ii) 5日、エントレリオス州グアレグアイチュ市において、同建設に抗議する大規模な集会が開催され、キルチネル大統領、シオリ副大統領、クリスティーナ大統領夫人(上院議員)、主要閣僚、19州の知事等約4万人が参加した。

キルチネル大統領は、同問題が、単にエントレリオス州だけでなく、亜全体に関わる環

境問題である旨発言したが、同州の環境市民団体等が主張している同製紙工場建設自体の反対には言及せず、ウルグアイ側による環境調査実施を改めて求めることに終始したため、同市民団体等からは、不満の声も出た。

(iii) 9日、世銀の国際金融公社（I F C）は、同製紙工場プロジェクトの環境及び社会面での評価プロセスを完了するために行動計画を公表した。

これに対して、同日、エストラーダ亜外務省環境問題担当大使は、亜が約1年前から主張してきた世銀による調査の問題点が認識された結果である旨述べた。一方、イゴラ・ウルグアイ環境次官は、「これは驚きではない。この調査が終了した後も、（世銀は）環境上問題がないことを知っているにも拘わらず、亜との間で問題が存在する限り、別の調査を実施するよう求めてくるであろうし、我々は引き続き調査を実施することになるだろう」と述べた。

(iv) 6月8日及び9日、I C Jにおいて、亜及びウルグアイによる口頭陳述が行われる予定。

(ロ) ウルグアイにおける行方不明者問題

亜軍政期（1976－83年）にウルグアイ軍部に身柄を拘束され連行された亜詩人ヘルマンの息子の妻クラウディアの行方不明事件に関し、6日、ウルグアイにて同事件に関与した疑いのある関係者6名が拘束されたことを受け、8日、亜政府は、ウルグアイ外務省に対して同関係者6名の引渡要請を行った。

(3) ボリビア

(イ) ボリビアによる天然ガス・石油の国有化宣言を受け、4日、亜北部のミシオネス州プエルト・イグアス市において、キルチネル大統領は、ルーラ伯大統領、チャベス・ベネズエラ大統領及びモラレス・ボリビア大統領と緊急首脳会談を行った。

(ロ) 同会談において、ボリビアは、亜及び伯への天然ガス供給は保障したが、具体的な価格や供給量については決定されず、今後交渉される予定。また、4首脳は、プエルト・イグアス首脳会談共同宣言を発出し、価格交渉は、合理的且つ公平な枠組で行われること、メルコスールの深化及び南米統合の強化のために取り組んでいくこと、メルコスール・E U間の対話が重要であること、ボリビアの総合的な発展に資する共同の投資を促進すること等で合意した。

(4) ベネズエラ

(イ) 23日、亜において、ベネズエラを含むメルコスール5カ国が、ベネズエラのメルコスール加盟議定書に合意し、ラ米統合のコンテキストにおける南米統合プロセスの強化へのコミットメントを確認した。

(ロ) 同議定書は、7月20－21日に亜のコルドバ州で開催されるメルコスール首脳会議において署名される予定である。

(5) チリ

29日、タイアナ外相、デビード公共事業相及びゴンサレス・ガルシア厚生・環境相率いる亜代表団は、チリを訪問し、亜チリ間のエネルギー統合プロセス強化のためのイニシアティブの具体化について、チリ代表団と協議した。今般の亜チリ協議は、3月21日に行われたキルチネル大統領とバチェレ大統領の首脳会談で合意されたイニシアティブを受けて行われたものである。

(6) ブラジル及び米国

(イ) 23日、タイアナ外相は、ハイチ支援フォローアップ会合出席のため訪伯し、同会合に出席したアモリン伯外相及びシャノン米國務次官補（西半球問題担当）とそれぞれ会談を行った。

(ロ) 亜伯外相会談において、タイアナ外相は、現在の両国関係が非常に良好であることを繰り返し強調した。また、両外相は、ベネズエラのメルコスール正式加盟問題、ボリビア問題等についても話し合った。

(ハ) タイアナ外相とシャノン米國務次官補（西半球問題担当）との会談では、主にボリビア問題について意見交換が行われた。シャノン次官補はタイアナ外相に対して、ボリビア情勢を引き続き注意深くフォローすると述べた。

(7) ドイツ

(イ) 2-3日、シュタインマイヤー独外相は、南米訪問の一環として亜を訪問し、3日、キルチネル大統領及びタイアナ外相等と会談を行った。

(ロ) キルチネル大統領との会談において、シュタインマイヤー外相は、亜の経済回復を賞賛し、キルチネル大統領の政策運営を評価した他、同会談において、11-13日にウィーンで開催される第4回EU中南米カリブ首脳会合の機会に、キルチネル大統領とメルケル独首相が、首脳会談を行うことが確認された。

(ハ) また、タイアナ外相との会談では、二国間問題、地域問題、国際問題について協議した。タイアナ外相は、メルケル政権発足後初めての独からの要人訪問に感謝の意を表明し、同訪問がEU中南米カリブ首脳会合の直前に行われたことは、独の亜に対する関心を表していると述べた。また、タイアナ外相は、亜独は、経済関係だけでなく、文化、南極における科学調査、二国間協力分野においても関係を強化していく旨強調した。

シュタインマイヤー外相は、危機後の亜の経済回復を評価し、（メルコスール）地域統合プロセスの促進が、亜及び同地域への投資を促進すると述べた他、亜政府の人権分野における政策についても評価した。

(ニ) その他、シュタインマイヤー外相は、タイアナ外相及びミセリ経済相と共に、亜証券取引所で開催された亜及び独企業家との昼食会に出席した。昼食会の場で、ミセリ経済相は、亜はパリクラブにおける債務再編交渉を進める用意がある旨伝えた。

(8) コロンビア

29日、亜外務省は、キルチネル大統領が、28日のコロンビア大統領選挙におけるウリベ現大統領の再選を祝福した旨のプレス・コミュニケを発出した。

(9) 要人往来

(イ) 来訪

5月2-3日 シュタインマイヤー独外相（キルチネル大統領及びタイアナ外相との会談）

5月4日 ルーラ伯大統領、チャベス・ベネズエラ大統領、モラレス・ボリビア大統領（キルチネル大統領との4者会談。於：イグアス）

5月24日 バクティヤール・パキスタン外務担当国務大臣（第1回亜パキスタン政策協議出席）

5月30日 ラチド・パラグアイ外相（タイアナ外相と会談）

(ロ) 往訪

5月9-13日 キルチネル大統領のオーストリア訪問（EU中南米カリブ首脳会合出席。サパテロ西首相、メルケル独首相、アナン国連事務総長等とバイ会談）

5月12-14日 ガレ国防相のハイチ訪問（プレヴァル大統領就任式出席）

5月23日 タイアナ外相の伯訪問（ハイチ支援フォローアップ会合出席）

5月29日 タイアナ外相、デビッド公共事業相、ゴンサレス・ガルシア厚生・環境相のチリ訪問（エネルギー統合に関するチリ代表団との会合）